

プレーパークを開催し、地域コミュニティの場となる外遊びの環境作りを実施した 千種やんちゃっこ

活動の目的

近年、子どもたちは仲間と過ごす時間も空間も減少し、生きていく上での学びの場となる遊びの経験が少なくなった。また、さまざまな社会変化に伴い人間関係は希薄になり、数十年前には当たり前であった地域内でのお互い様の子育ては見られなくなった。

一方、子どもたちの外遊びの場が確保されると、仲間と共に五感を生かしながら遊びの中で考え、工夫や失敗・成功体験を通して、自己肯定感や非認知能力を高められることが期待される。

そこで本活動では、子どもたちがのびのび遊べる外遊びの環境を整え、外遊びを通して地域住民の縦横斜めの人間関係を構築し、地域コミュニティの場となることを目的とした。

活動の内容及び経過

2019年度4月、6月、10月、12月の計4回、プレーパーク（やりたいことが自分の手で実現できる子どもが主役の遊び場）を開催した。うち3回は瀬戸町総合運動公園の芝生広場を活用し、1回は万富公民館横の公園で地域のマルシェが行われている日時に合わせて実施した。

ロープ、スラックライン、木工作・クラフト、段ボール、ままごと道具、どんぐりころがし、憩いの場となるカフェコーナーを準備した。また時期に応じて、水遊びや七輪を準備したり、地域の方の協力を得て竹馬作りを実施した。岡山市のプレーリーダーを講師として招き、子どもたちの遊びを引き出してもらった。

活動の成果・効果

毎回、30～40名程度の参加者があった。さまざまな年齢の子どもが集まり、共に遊びの中で考え、コミュニケーションを取りながら、遊ぶ姿が見られた。講師のプレーリーダーによる遊びのきっかけ作りにより、自然物を利用した遊びや、素材を有効に活用する遊びが広がった。

具体例として、棒・紐・布を用いたティピーテント作りは子どもたちに人気で、試行錯誤しながら粘り強く取り組む姿が見られた。木工作・クラフトコーナーでは、子どもだけではなく大人も一緒になって自由な発想で楽しむ姿が見られた。また、木登りやスラックラインなど、自分の力量を計りながら未知の遊びに挑戦する姿が見られた。七輪でのべっこう飴作りでは、力を出し合っただけで火起こしするところから始め、作り方を理解し、時間の経過とともに変化の様子をじっくり観察しながら完成させることで達成感が得られた様子が見られた。また、子ども大人問わずお互



いに教え合う姿も見られた。火を扱うことで危険から身を守る力を身につけ、同時に食べ物を自分たちで作ることは食育にも繋がると思われる。巨大将棋や巨大オセロでは、大きな盤を囲んで年齢問わず交流が持てる場となった。

参加者からは「家ではできない遊びができる」「親子共にゆっくり過ごせた」「地域の方と交流ができた」などの感想が聞かれた。

本活動では、コミュニケーションを取らないと遊びが成立しないことが多いため、遊びを通して地域の大人を含めた縦横斜めの人間関係が豊富に生まれた。保護者同士が子育ての情報交換をしたり、お互いの子どもを見守ったりできる環境は、子育ての不安を解消しながらお互い様の子育て、地域ぐるみの子育てに繋がるのではないかと思われる。また、子どもたちは仲間と共に遊びの中でチャレンジし、試行錯誤しながら、五感を生かした体験を通して、自己肯定感や非認知能力が高められたと考えられる。加えて、自然豊かな地域資源である瀬戸町総合運動公園の広大な芝生広場（のびのび広場）を有効に活用し、参加者の地域への愛着も深められたと思われる。

今後の課題と問題点

本活動の参加者は主に、幼児・小学生及びその保護者であった。中高生や地域の大人・高齢者にも足を運んでもらい、世代間交流の場としたい。また、プレーパークが用意された遊び場ではなく「みんなで作る遊び場」になるよう、参加者が主体性を持てるような仕組みづくりをしたい。

- 代表者：松原晃子
- 所在地：岡山市東区瀬戸町万富
- TEL：090-1305-1291
- E-MAIL：yanchakko2018@gmail.com
- 設立年：2018年
- メンバー数：8名